

BYOD端末、活躍中！



BYOD&探究通信

第2号

発行日
7月19日

ロイロノート？

ロイロノートとは、令和5年度より滋賀県立高校が一括で採用している教育用ソフトです。



BYOD端末を活用し、対話的で深い学びの実現を目指す

先日、ロイロノートを活用した探究的な学びの実現に向けて、高校二年生の化学の学習で実施された研究授業を紹介します。

学園祭の余韻の残る七月八日。この日から理系二年生は化学の新たな単元『溶液』を学び始めました。皆さんは小学生のときに「物が溶けるとどうして見えなくなっちゃうの？」という問いを探究したのではないのでしょうか。そのとき、目に見えないほど小さな粒になってしまいうからだよ、と教わったかもしれません。化学という科目の大きな特徴は「目に見えない小さな性質の性質を扱っていく」というところにあります。目で見えないものを扱うわけですから、難しく感じることもあると思います。そこで、学習者の皆さんの理解の助けとなるようなICT機器の活用が求められています。

今回の学習では、「物質の水への溶解性を、その構造から予測する」という課題を設定し、グループで取り組みました。ロイロノートには扱う物質と、溶解性を考えるための資料が提示され、生徒の皆さんは必要な資料を探しながら、自らのアイデアを共有して学びを深めているようでした。



◇ 授業者インタビュー

化学を担当している、西本先生に話を伺いました。

Q:ICTを活用した授業をするにあたり、心がけていることはありますか？

A:端末で調べて終わり、にならないように注意しています。今回の学習は、溶解性を構造から予想しましたが、実際に実験して結果を検証するコーナーを設けています。とだけICTが発達しても、実際に「体験する」ことに勝る学習はないのではないかと思います。ICTでよいところはICTで、実際に体験するべきところはなるべく実験で、うまく使い分けながら進めていきたいです。



編集後記・情報課より

MicrosoftにロイロノートにGoogle、最近ではCanvaやFlip…教育に活用されるソフトは年々増え続けて、教員にも学びが必要です。教員自身も失敗を恐れずに、いろんなソフトを活用していきたいものです。

◇生徒のみなさんの反応は：

今回の学習では、なんと最後に先生から正解が提示されませんでした。生徒のみんなはモヤモヤしてないの？聞いてみると、むしろワクワクしてこういう授業も面白かったという声が聞かれました。実際、チャイムが鳴り終わった後も、議論を続ける生徒さんの姿がとても印象的でした。

社会に出ると、答えがあることばかりではなく、モヤモヤを抱えながら探究を続けることもありますね。どんな社会になっても、生き抜く力をICTを活用しながらつけていってほしいと思います。

